～後期高齢者医療制度のお知らせ～

高額介護合算療養費について

高額介護合算療養費とは、医療と介護の両方を利用している世帯の自己負担を軽減する制度です。同じ世帯の被保険者が、１年間に支払った後期高齢者医療制度と介護保険の自己負担額の合計が限度額を超えたときは（下記表を参照）、その超えた額が後期高齢者医療制度及び介護保険から支給されます。対象となる方には、ご案内が届きますのでお手続き願います。

※後期高齢者医療制度または介護保険の自己負担額のいずれかが０円の場合は、対象となりません。
※支給額が 500 円以下の場合は、支給されません。

自己負担限度額表 【１年分の自己負担額の計算期間：８月１日～翌年７月 31 日】

《～平成 30 年７月末》

負担割合	区分		自己負担額の限度額
３割	現役並み所得者		67 万円
１割	一般		56 万円
	住民税非課税世帯	区分Ⅱ（※１）	31 万円
		区分Ⅰ（※２）	19 万円

※１　世帯全員が住民税非課税である方
※２　世帯全員が住民税非課税であり、世帯全員の所得が０円（公的年金収入のみの場合、その受給額が 80 万円以下）、または老齢福祉年金を受給している方

３割の区分が変更になります

《平成 30 年８月～》

負担割合	区分		自己負担額の限度額
３割	現役並み所得者	課税所得690万円以上	212 万円
		課税所得380万円以上	141 万円
		課税所得145万円以上	67万円
１割	一般		56 万円
	住民税非課税世帯	区分Ⅱ（※１）	31 万円
		区分Ⅰ（※２）	19 万円

年に１度健診を受けましょう！

健診の目的は、すでに病気になっている人を見つけることだけではありません。肥満や高血圧、脂質異常、高血糖などの生活習慣病のリスクを見つけ、より早く生活習慣の改善を行うことで、生活習慣病の発症や悪化を予防します。
※津別病院での個別健診を受診することができます。詳しくは役場までお問い合わせください。

問い合わせ先

・北海道後期高齢者医療広域連合　☎ 011 － 290 － 5601
・役場保健福祉課　健康医療グループ　後期高齢者医療担当　☎ 76 － 2151(内線 229)

地方創生の取り組み 15

若者の力こそ地域づくりの原動力

山田洋次監督の「同胞（はらから）」という映画をご存じでしょうか。小さな村の青年団が東京の劇団の公演を実現するために奮闘する話ですが、同じようなことを実体験として持つ方もいらっしゃると思います。仕事以外のところで、真剣にまちづくりに取り組む姿には、本当に頭が下がります。この津別にも、まちづくりに寄与する取り組みをなされている方がいらっしゃいますが、大変誇れることだと思います。

セルフリノベーションでつくる新しい拠点 コワーキングスペース

広報10月号でご紹介いたしましたセルフリノベーションにより整備を進めています、コワーキングスペースの作業の様子をご紹介いたします。

本プロジェクトは立川彰さん（道東テレビ）が運営する予定の交流拠点を整備するものですが（広報４月号で紹介）、同時にリノベーションやＤＩＹに興味のある方など誰でも参加できるワークショップとして整備を進めているものです。

９月15日からスタートし、12月までに17回開催されていますが、男女問わず子どもから大人まで毎回十数名の方が参加し、建築士の指導を受けながら作業を進めています。

子どもたちは主にペンキ塗りなど楽しみながらできる軽作業を中心に、大人は墨出しや内装の下地作り、ボード張など、本格的な作業も多くあります。

またお昼には、ご近所の方など応援していただいている方々から多くの惣菜などの差し入れをいただき、みんなで囲んでのランチタイムも楽しみな時間になっています。応援いただいた皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

コワーキングスペースは２月下旬にオープンを予定していますが、そこに向け、作業も終盤に差し掛かっています。１月以降も４回程度ワークショップが開催される予定ですので興味のある方は是非参加をお願いいたします。

▶リノベーションによるコワーキングスペース整備作業の様子

北海道大学の学生団体ＨＡＬＣＣ（ハルク）と連携したまちづくり ～最終成果報告会～

先月号では、今年度のハルクの活動状況について紹介いたしました。今月号では、12月８日に行いました最終成果報告会の模様を紹介いたします。

津別高校生と北大生が、町の課題とその解決策を考える「若者議会班」は、高校生５名それぞれが、各々の考えた提案内容と、「自分の住んでいる町のことを考えることで、津別に対しての興味関心が高まった」「この企画をきっかけに、もっと津別町を良くするためにはどうしたら良いのかを考えていきたい」といった活動を通じての感想を発表しました。

津別高校生と北大生が、北海道大学構内で津別の特産品の販売をし、町のＰＲを行う「北大マルシェ班」は、10月21日に行った販売の様子を説明し、「たくさんの大学生と関わり、良いところをたくさん吸収することができた」「やる気を持って行動することの大切さを学んだ」「津別町への愛情が深まった」といった活動を通じての感想を発表しました。

北大生が、津別に新たな人の流れを生み出すためのストーリー性のある観光ルートを考える「津別留学班」は、事前に行った町内事業者や旅行代理店、都市部の小中学校教員への聞き取り調査を基に、関東圏在住の小学校５年生～中学校３年生を対象に「津別を学ぶ」をコンセプトにした３泊４日の体験型教育プログラムを提案しました。

▲最終成果報告会の様子

問い合わせ先
住民企画課
地方創生推進グループ
☎76－2151（内線241）
e-mail：
tsubetsusousei@gmail.com